

御伝鈔(その4)

親鸞聖人のひ孫である覚如上人が、親鸞没後33年に親鸞聖人の御遺徳を讃えた『報恩講私記』を著わされました。続いてその翌年、親鸞聖人の伝記絵『親鸞伝絵』を著わされ、詞書(ことばがき)の部分だけを『御伝鈔』(上巻・八段、下巻・七段)といいます。

第四段「蓮位夢想(れんにむそう)」

建長8(1256)年2月9日の夜、親鸞聖人の身のまわりのお世話をされていた蓮位房(れんにぼう)が、夢の中で聖徳太子からお告げを受けました。

それは、「尊い慈悲をおもちの阿弥陀さま」と、聖徳太子が親鸞聖人に仰られつつ、頭(こうべ)を垂れて次のように申されたということです。

「親鸞聖人は尊い仏さまの教えによって、すべての人々を救うために、この世にお生まれになられた方である。」

これによって親鸞聖人は、阿弥陀さまの生まれ変わりの方であることは明らかなことでもあります。



昨年の初参式(平成26年5月25日開催)

住職レター

毎年五月の終わりに、「初参式」を勤めます。「初参式」とは、お子さまの誕生後、初めて仏さまの前で手を合わせ、お祝いする仏教行事です。

お宮さんへお参りするのでは?と、思われているかもしれませんが、お寺へもご参拝くださいね。

生まれたばかりのお子さまも、みるみるうちに体も心も成長していくことでしょう。その最初のときに、お子さまと共に親御さまも仏さまに手を合わせ、生まれたことの意味を確かめていただきたいと思います。

親として生きる出発点であり、赤ちゃんによ

つて与えられた尊い仏縁であります。

今年は、五月三十一日(日曜日)午前九時半からです。当日は、善教寺仏教婦人会の役員さんにお手伝いを頂き、善教寺総代に来賓として出席を頂きます。

初参式にお参りしたこと、赤ちゃんは、覚えていないでしょうね。しかし、大人になってお寺へお参りした時、細胞レベルで脳の奥底に眠っていた初参式の記憶が甦り、「なんだか懐かしい所に来たな」となれば嬉しいです。



本願寺阿弥陀堂前にて撮影